

## 自己実現と将来の夢

本日（12月13日）、島根県立大学の推薦入試の合格発表があり、本校から看護学科を受験した2名が合格し、就職・進学を希望していた3年生全員の進路が決定しました。本校からの大学等へ進学は、全員が「推薦」という形で進んでいきます。テストの点だけでははかれない要素、高校時代に何をどれだけ頑張ったか、当該学科や将来の職業についての興味・関心や適性、人間性、主体性、行動力などが小論文や面接等により評価されます。このように推薦入試で島根県立大学、大阪商業大学、岡山商科大学などの4年制大学に5名、島根県立大学短期大学部などの短期大学に3名、医療・看護・福祉、農林大学校、ファッション、ビジネス、外国語、調理などの専門学校等に30名が合格しました。

就職については、校長だより第19号でお知らせしたとおりで、51名が内定を得ています。県内就職が44名、県外就職7名で、その就職地域の内訳は県内（松江2、出雲13、大田24、江津・浜田5）、県外（中国3、関西4）で、近年は県内就職の割合が多いのが特徴です。この5年間を見ても、就職を希望する生徒の8割以上が県内での就職を決めています。〔県内就職の割合＝R1・86.3%、H30・80.4%、H29・85.7%、H28・86.1%、H27・89.3%〕本校の場合、昭和から平成に代わる頃は多くの生徒が県外に就職していたようです。手元にあるデータでは、平成5年度は23.5%が県内就職で、当時8割近くが県外へ就職していたようです。これが平成10年には54.1%となり、10年前の平成20年度の県内就職率が76.7%、平成21年度は72.6%ですので、県内就職を決めて地元や地域で活躍してくれる生徒が増えてきているということは、嬉しいことです。

本校の進路指導部長が「進学するなら邇摩高校、就職するなら邇摩高校」といつているように、進学も就職も対応できる学校ですし、進路先を決めた3年生は、生徒自身が頑張ってきたことはもちろんですが、進路実現に向けて教員もONE TEAMで支援してきた成果だろうと思います。

島根県は人口減少の対策として様々な施策を打っています。その中で高校生がこうやって地元に残って活性化の一躍を担ってくれるということは、間違いなく『宝』であり、たとえ県外に出たとしても県外からでも応援してくれたり、Uターンして県外で獲得した人脈や能力を活かして支えてくれるような人材となってくれることを願っています。

3年生は残りわずかな高校生として、邇摩高生としての生活です。進学先・就職先に適応でき、活躍できるよう4月までの準備を怠らず、将来の自分の夢の実現に向けて頑張ってもらいたいと思います。

私の子どもは3人。そのうち2人が県内に就職しています。

県内就職率66.7%ですので、邇摩高校には及びません。

